

ティーチング・ステートメント

所属 工学部建築学科
名前 谷口 尚弘
作成日 2021年3月17日

【責任】

工学部建築学科に所属し、専門は建築計画・都市計画、とりわけ、住宅・住宅地計画、地域計画（まちづくり）、住教育、さらに住宅生産といった計画分野のハードからソフト面に従事している。よって地域との関わりも多く、特に手稲区で27年間「ていね夏あかり」活動を実践してきた。

担当している科目は、一年生で「建築製図基礎」「建築ツーリズム」「プロジェクトスキル」「北方圏生活史」、二年生で「住居論」「CAD演習」、三年生で「日本語表現法Ⅲ」「コミュニティデザイン」、四年生で「建築デザイン演習」「卒業研究」であり、比較的一年生の科目が多く初年次教育にかかわっている。

主たる大学公務としては入試広報センター長に携わり、高校生に対して本学の魅力を伝えるとともに入学前教育の方法も検討している。

【理念】

学生には、大学の教室の中で学ぶことと、大学の外で学ぶことなど、いろんな場面で「学び」があることを理解し、主体的に行動ができる人材になって欲しい

- ・第一の理念は、本学の名を背負って社会で働くことが宿命づけられているため、社会において恥じない卒業生となること、一人の社会人として生きていけるための方法を伝えたい。最近の建築分野では資格取得の重要性が増してきたが、建築の専門分野で生きていくうえでは重要である。さらに、それ以前として一人の人として生きていくこと、つまり、「学ぶこと」によって自己成長し、それを楽しむことの重要性を学んで欲しいと思っている。
 - ・第二に、専門分野（建築分野も含めた他分野も）を学ぶことの楽しさ、新しいことを学べる楽しさを享受してほしいと思っている。
- いずれにしても、学問を享受しながら人生を楽しむことを伝えていきたい。

【方針・方法】

上記の理念を実現するために、「学びによる学問の楽しさの享受」、「学ぶ態度と基礎学力の向上」についての方針で教育している。また、教育改革を推進するために、他教育において「教員の学びの場」を創出するとともに、その研究（住教育の方法論の研究）を実施している。

「学びによる学問の楽しさの享受」

- ・他者との協働による新たな発見を見出させるために、演習系科目であるプロジェクトスキルⅠやコミュニティデザインにおいてはワークショップを活用しながら授業を実施している。ワークショップのなかで口頭の議論のみならず、模造紙や模型などの作成を通して協働性を芽生えさせる。
- ・プロジェクトスキルⅠにおいては実際に雪建築物を製作させ、北海道の学びも享受させている。
- ・建築ツーリズムの授業では、実際に北海道博物館や札幌ドームに行き、モノを見学しながらレポートを提出させる。これにより建築や都市を見る目を養うとともに、「空間」「ひと」「時間」といった概念を理解させ「現場」を見ることの重要性を享受させている。
- ・卒業研究は、一人一テーマで責任を持たせる実施させている。自分でデータを収集する、それを解析する、まとめる、発表・質疑応答、の四つの工程において自己責任性が生成される。データ収集にあたり自分で自治体などにアポイントをとりヒアリングに行くなど、全て行わなければいけないため「行動しなければいけない＝行動する」といった能力が養われる。

また、時には他大学の研究者や企業の人とも交流や打合せの議事録を書かせるなど実務も学ばせる。

- ・ゼミ活動科目（建築ラボセミナー）では、地域活動の実践（ていね夏あかり）をもとに実施している。これは、企画、計画、実施などすべてゼミ生数名で協力しあいながら実施しなければいけないため協働性が芽生える。また、地域の人々（主に小学生）ともかかわらなければいけないために協調性も育まれる。

「学ぶ態度と基礎学力の向上」

- ・一年生前期の建築製図基礎（演習系）においては、建築の図面の基礎を学ばせるとともに、わからないところはすぐに教員に問い合わせるのではなく、まず「自ら考えること」を大事にしている。さらに「友達に聞かせること（普通高校出身者が工業高校出身者）」を通してコミュニケーションが育むよう工夫している。ただし 課題提出時は、一対一（教員と学生）によるエスキス指導であるので、学生と教員のコミュニケーションは図られている。
- ・北方圏生活史や住居論（両者座学科目）においては、PPTによる授業を展開するがPPTスライドは資料としては配布しない。授業の内容はノートにとらせ、授業中は集中させる。ただし、いくつか必要な別資料は配布する場合はある。
- ・その日の授業内容が理解できているかの確認のために、授業の最後にその日の授業内容を要約させるレポートをその日に提出させる。これについては、確認しコメントを添えて返答する。
- ・演習系の課題及び座学系のレポートについては、第一回目の授業時に、提出課題と日時を示し、全ての課題・レポートを提出させる。
- ・授業で活用しているものとしてはPPTのみならず、web や google マップを活用しながら実施している。札幌という地方にいながら最先端の建築物や都市を把握させるために、東京圏の地図や建物について IT を活用しながら建築や都市を把握させている。

「教員の学びの場」

- ・小生は住教育の形成に視点をあて研究や活動に従事している。年に1回ほど、家庭科担当の先生に住の教育の方法について講義等している。また、家庭科の教員にアンケートやヒアリング調査を実施し、教育の方法論について分析し学術論文も執筆している。住の教育の研究とはいえ、そこから教育の方法も見出され、小生の授業改善につなげている。

【成果・評価】

- ・学生たちの交友関係の拡大
- ・文章表現能力の向上、授業理解度、課題の提出状況 定期試験の平均点が向上
- ・自発的学習能力の向上、学習スケジュールの作成できるようになる
- ・自律的活動の向上

【目標】

以上、様々な方法や毎年授業法を見直しながら実施しているが、まだ不足があるため、下記のような事項を課題・目標とする。

- ・長期) 他大学の教員と交流をもちながら、授業の方法を検討したい
- ・短期) 授業を積極的に関与させるような授業をしたい
- ・短期) さらなる理解度を向上させるための web や実物を活用した授業改善